

ARVC

治療

治療方針の立て方

ARVCの治療としては、心室不整脈に対する治療と、心不全に対する治療がある。病期が進行するにしたがって、心室不整脈から右心不全そして左心不全への対応が重要となってくる。

① VTに対して

① 薬物療法

治療としては主にアミオダロンやソタロールなどのⅢ群抗不整脈薬が用いられる。

- ① アンカロン 100~200mg 分 1~2
- ② ソタコール 80~160mg 分 2
- ③ メインテート 1.25~5mg 分 1

本症のVTには交感神経の関与があるため、βブロッカーも有用である。

② ICD

突然死からの蘇生例、血行動態的に不安定なVT症例、さらに重度のRVまたはLVの収縮能低下を有する症例においてはクラスⅠでICDが推奨される。

③ カテーテルアブレーション

VT機序の多くは、心筋内脂肪線維化による瘢痕組織が関与するリエントリーであり、カテーテルアブレーションで治療可能である。

一般的にARVCに対するアブレーションの急性期効果は良好であるが、数年後のVT再発が多いとも言われる。

② 心不全に対して

① 薬物療法

- ① ラシックス 20mg 分 1
- ② レニベース 2.5mg 分 1
- ③ アーチスト 2.5mg~20mg 分 1~2

右心不全症状が存在する症例では、利尿剤を中心とした心不全治療を行なう。

左心不全まで進行した症例では、通常の左心不全の治療に準じて、レニン・アンギオテンシン系阻害薬やβブロッカーを用いる。